

○鳩山政権が本格稼働

政権の運営を始めてから、3ヶ月。ここで、懸命に取り組んできた毎日の仕事をふり返れば、一年以上の歳月が流れたような実感があります。朝8時から夜の11時ころまで、国会対応、陳情、官僚相手の入れ替わり立ち代りの議論が続きます。闇の深さが見えてくると、「これは本当に大変だ。」と実感しますが、一方で、改革の気持ちは日々充実しています。

来年一月早々には、景気対策の第2次補正が組まれることになりました。景気、環境、雇用などの分野で緊急対策を組む予定です。さらに、菅国家戦略担当大臣の下に結成された「環境戦略会議」に参加しています。来年度予算だけでなく中・長期も含めた政策では、住宅構造のエコ化、都市計画やライフスタイルなど生活に身近なところからの省エネなど、低炭素を実現できるような政策を絞り込むことになっています。「環境は新たなビジネスチャンスだ。」が私たちの合言葉です。特に教育分野では、学校での太陽光発電、二重窓や断熱材、校庭の芝生化などで、具体的な省エネ効果を数値化して、その効果を地域に波及させながら地域社会を巻き込んだ環境運動に盛り上げられないか。さらに、地方自治体単位で省エネのモデル構築をして、都市計画、税制、補助金など環境を中心に総合的に体系化する実験を、文科省の研究費を投じてやりたという話が専門家の間からも出ています。

来年度の本予算、95兆円を80兆円台に削りこむために、仙谷さんの行政刷新会議で、「事業仕分け」による「無駄」の洗い出しが始まりました。枝野議員や蓮舫議員に派手に切り込まれています。お蔭で、野依先生始めノーベル賞学者の皆さんや元宇宙飛行士の毛利さんなどからは大目玉です。「科学技術予算を切れば、この国は滅びる。」と、叱られています。この先は、私たち政務三役が判断します。両方の話を聴いて、基本的には教育、科学技術がこの国にとって最優先の国家戦略だという政策の優先順位は大切にしながら、その上で、無駄なところを省いて財源を捻出する。その作業に入っていきます。

もう一つの財源議論、税制調査会も本格稼働し始めました。自民党が選挙目的で作った役に立たない減税項目を洗い出そうという議論です。効き目のない租税特別措置

などは極力廃止して子ども手当の財源にするという前提なのです。子ども手当の財源の一部としての配偶者控除、扶養控除の廃止をするだけでなく、財務省は、特定扶養控除の廃止まで持ち出してくるものですから、「マニフェストの約束と違う、いくら金が足りないといっても余分な増税はまかりならん。」と頑張っています。さらに、文部科学省の未来戦略で、私は、文化、芸術、研究開発法人などへの寄付金を促すための新しい寄付金税制を提唱しています。必要な減税と、「ダマシ」の減税は、区別しようと言うことです。毎日、目の回る忙しさです。

○タイ出張、外交もがんばる。

予算や国会日程の合間を縫ってタイに出張しました。3つの仕事を兼ねています。バンコクで行われる留学生のガイダンスフェアーに出席して、東南アジアの人々が日本の大学や研究機関に何を求めているのか確かめることです。同じ日に、奥地のチェンマイに飛んで、私が韓国の黄祐呂議員と共同議長をしている「北朝鮮の人権問題に関する国際議員連盟」の総会に出席しました。今年は、中井治拉致担当大臣や前職の中山恭子議員も出席していただきました。チェンマイにはタイの拉致被害者アノーチエさんの家族がいます。さらに翌日は、車で4時間ほど走ってビルマとの国境に行きました。ビルマの少数民族カレン族が収容されている難民キャンプを訪れます。来年の4月には、ここから日本が40人ほどの難民を受け入れることになっています。私自身の独自外交も忘れてはいません。

○おかげさまで、娘の結婚。

先日、私の下の子が大阪に嫁ぎました。披露宴で、私は、「歌を謡う。」と言ったのですが、却下。代わりに、ヴァージンロードを手をつないで歩かされ、花婿に手渡すときの複雑な気持ちを噛み締めました。娘の花嫁姿。その美しさにこんなに感動することになるとは、夢にも思わなかったのですが、「涙は出すまい。」と心に決めて、頑張ったのでした。女房の子育てに感謝、感謝です。

中川正春